

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

大学の土木工学科を卒業後、主に北海道開発局で道路部門の業務を中心に携わり、40歳を過ぎた頃に技術士を取得しました。

私がこの道を目指そうと心に決めたきっかけは、高校生の頃の英語の授業中、担任でもあった英語教師が、雑談がてらに「土木作業員は英語で何と言う？」というお話をされ、この時私は初めて「civil engineer (ing)」という言葉に出会いました。社会・市民のための技術(者)を「カッコいい!!」と思った少年が、20数年後に技術士取得に至ったわけです。

職場での技術士取得者は徐々に増えていますが、私の場合、資格を取るだけでなく、勉強の過程で技術者にとって必要な多くのことが学べたように思います。技術者(士)にとって必要な資質とは？社会の中での役割は？社会への貢献や責任は？能力、倫理、等々、これまでの業務経験も振り返りながら、真に社会のため、市民のために役立てる技術者になるためには、まだまだ修行が足りないことを実感しました。

技術士を取得することで、少年の頃に夢見たカッコいい技術者に一歩近づけたのかもしれませんが、同時に果てしない継続研磨のスタートラインに立ったことも実感しました。また、技術士になることで各分野の第一線で活躍中の高い技術力と意識を持たれている方々との交流の機会が増え、これらのことも自身の研磨に大変役立っていると感じています。

現職では選択科目とは若干異なる分野の業務に携わっておりますが、技術者として目指すところに差異はありません。社会に役立てるカッコいい技術者(士)を目指してこれからも邁進していきたいと思えます。

菊田 悦二 (きくた えつじ)

●建設部門(建設環境)

勤務先

国立研究開発法人土木研究所
寒地土木研究所



→次号は、橋本 毅さん(上下水道、衛生工学)

私は32年前に今の職場に就職し、これまで沖縄、横浜での勤務もありましたが、大部分は北海道内で主に港湾関係の業務に携わってきました。技術士については、8年前に自身の技術力向上と民間企業の方からの信頼性向上のために必要だと考え取得しました。

さて現在、生産年齢人口の減少が進んでいることなどから「一億総活躍社会」の実現に向けて、「働き方改革」が進められています。私達の職場においても、「i-Construction」の推進による生産性向上や「魅力ある職場環境の整備」による人材確保などの取り組みが進められています。

この人材確保に関連して、私の大学生と高校生の子供のことですが、二人はそろそろ将来の職業や就職先などを真剣に考える時期です。二人に将来の職業のことを聞くと、二人とも私の職業にはあまり興味がなく、更に私の職場には全く魅力を感じていないようです。家で子供に仕事のことを話したことはあまりなく、私の仕事や職場の詳細は知らないと思います。多分、私の普段の生活ぶりや家での様子等から、そのように感じたのだらうと思います。今、私はリクルート活動等で、学生に私達の仕事内容や職場の魅力について話す機会がありますが、他人に職場の魅力を話す以前に、まずは最も身近な家族に職場の魅力を伝えるとともに、自分自身の「働き方改革」を進め、家族が「いい職場だ!」と感じるようにすることが必要だと、大いに反省しているところです。

このようなことから、今後は技術士として自己研鑽するとともに、特に「働き方改革」、「魅力ある職場づくり」の推進に取り組んでいきたいと考えています。

斉藤 敦志 (さいとう あつし)

●建設部門(港湾及び空港)

勤務先

北海道開発局 港湾空港部



→次号は、河合孝治さん(総監/建設/水産)